

**2022年（1月～9月）の県内の  
ヒトメタニューモウイルス  
（hMPV）感染症の流行状況**

**沖縄県南部保健所**

## 【はじめに】

- 令和4年5月頃、南部地域の小児科医療機関から、急性呼吸器疾患が増加しており、その中からヒトメタニューモウイルス（hMPV）感染症抗原検査キット陽性者が多数認められるとの情報があった。
- 6月には、基幹病院である南部医療センター・こども医療センターから小児呼吸器感染症の重症例が増加しており、hMPV抗原陽性例を複数認めるとの相談があり、9例に遺伝子解析を行い、すべてでhMPV陽性であった。
- そこで、南部保健所では流行の広がりを確認する目的にて、南部保健所管内の疫学調査を開始、次いで県内各保健所の協力を得て、県内におけるhMPV感染症の流行の調査を行った。

# ヒトメタニューモウイルス (hMPV)

- 2001年、van den Hoogenらによって発見
- パラミクソウイルス科メタニューモウイルス属

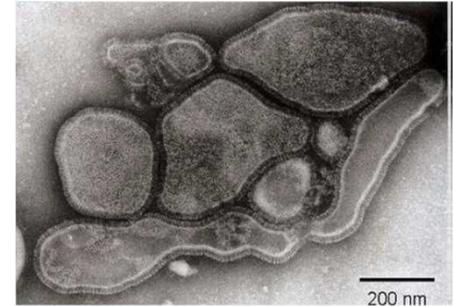


写真1. ヒトメタニューモウイルスの電子顕微鏡写真  
(大阪市立環境科学研究所撮影)

## ヒトメタニューモウイルス感染症

- 乳幼児期（1～5歳）を中心とした急性呼吸器感染症  
（上気道炎、下気道炎）
- 臨床症状：発熱、咳嗽、喘鳴など
- 潜伏期間：4～6日
- 流行時期：3～6月
- 検査法：主に抗原検査キットによる免疫クロマト法  
保険適応：2014年4月～ 6歳未満で画像上肺炎が強く疑われる者  
2022年4月～ 6歳未満で聴診上あるいは画像上肺炎が  
強く疑われる者
- 治療法：対症療法
- 感染症法上で規定される疾患外（届出対象ではない）

## 【対象および方法】

### 【調査対象】

沖縄県各保健所管内の小児科定点医療機関にて、2022年1月から9月（～10/2）までに、発熱、咳嗽、喘鳴などの急性呼吸器症状を認め、抗原定性キットにてhMPV感染症と診断された者

### 【調査方法】

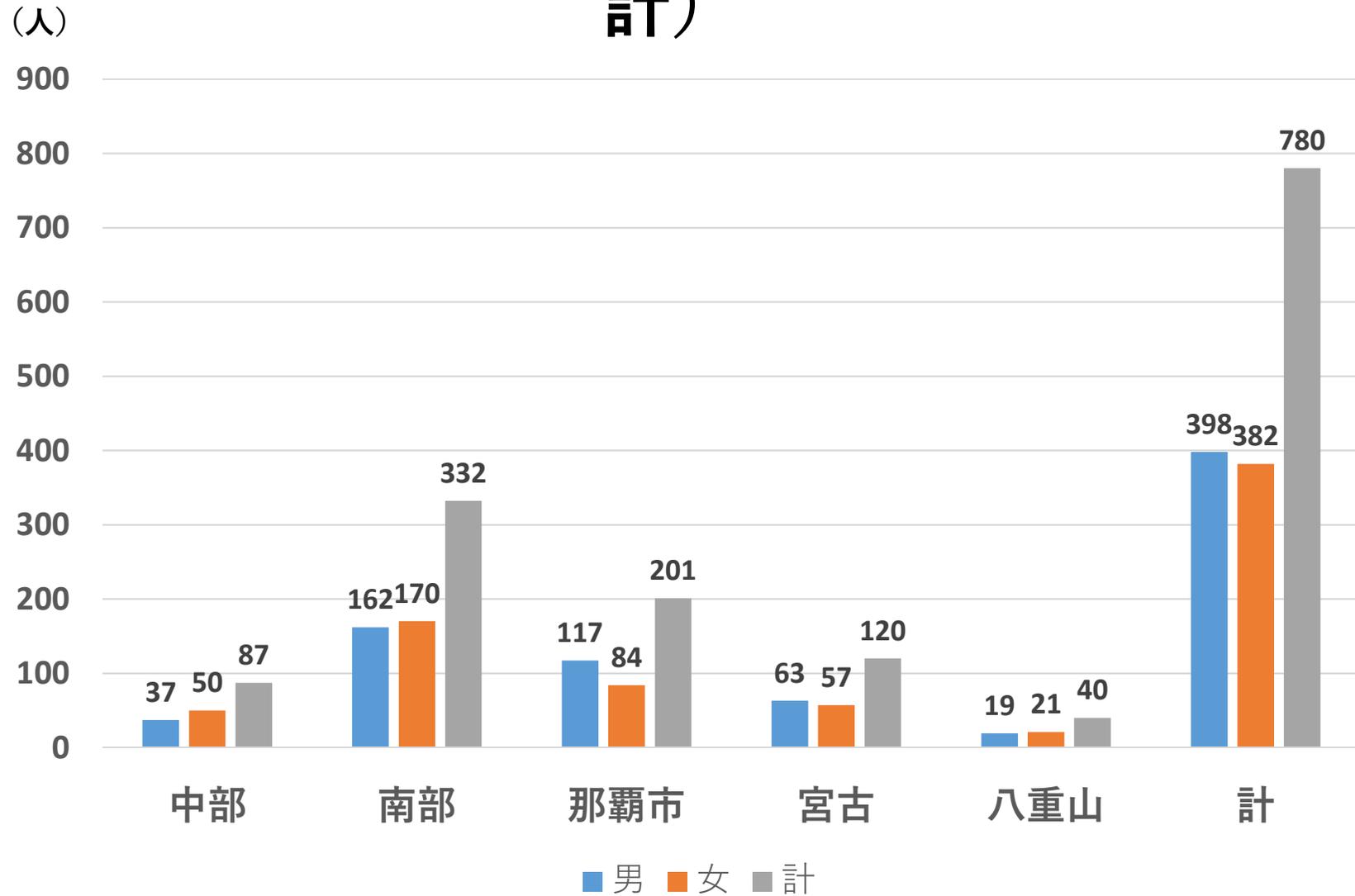
南部保健所管内では1～6月（～7月3日）は、後方視的に1か月ごとの患者数をまとめて報告、7月4日以降は1週間ごと（月～日曜）の患者数を翌月曜日にFAXにて報告して頂いた。  
どの他の保健所管内では、7月までは1か月ごとの患者数をまとめて報告、8月以降は1週間ごとの患者数を各保健所に報告、南部保健所で集計を行った。

この調査は、感染症法第15条第1項の積極的疫学調査として南部保健所が実施した。

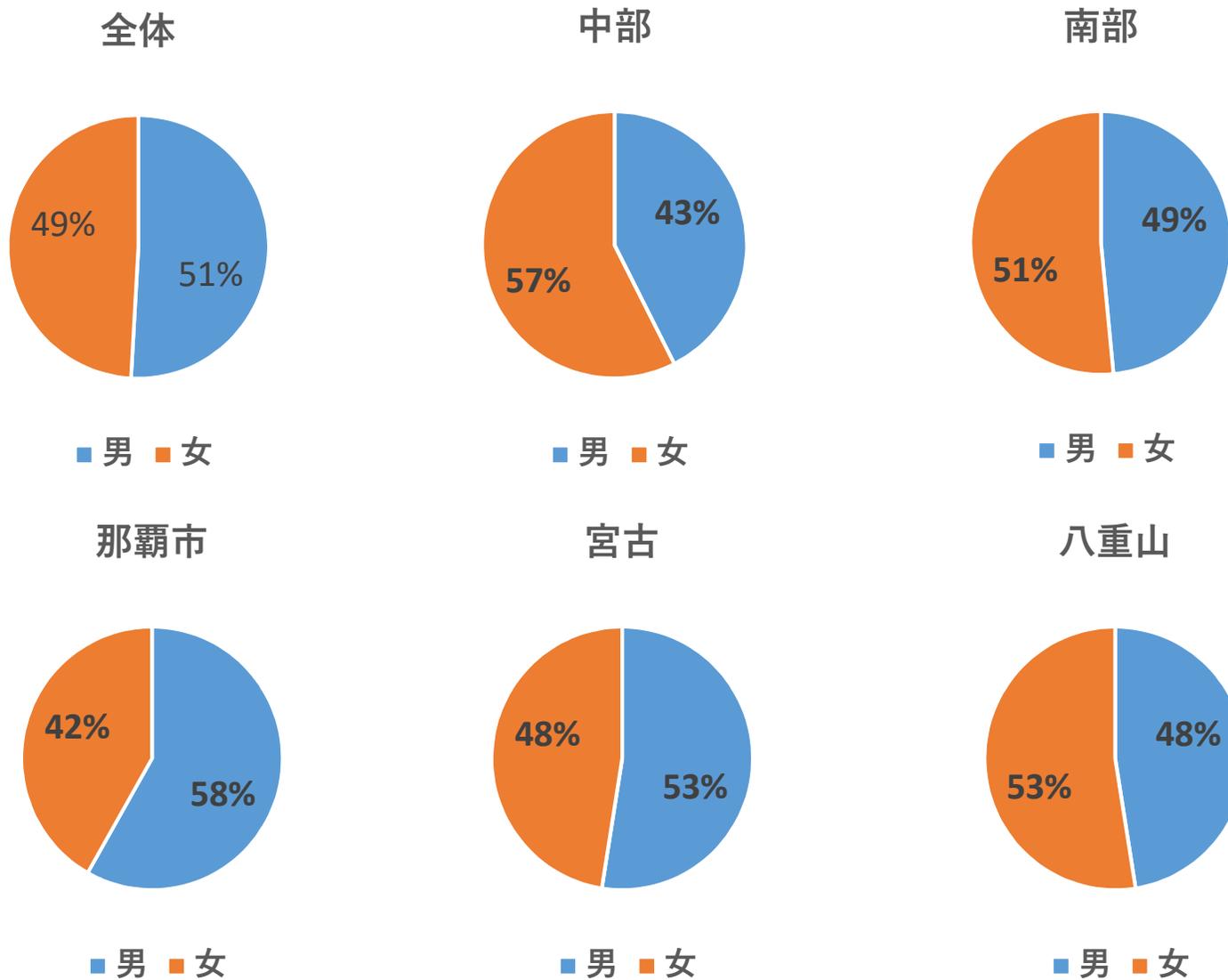
## 【結果】

- 北部保健所を除く、5保健所から報告を頂いた。
- hMPV感染症の検査を行っていない定点機関もあり、また、調査期間内に新たに開始した定点機関も存在したため、定点当たりではなく実数で集計し、解析した。
- 1月から3月の間は報告を認めなかった。
- 9月（10/2）までの合計患者数は780名で、保健所ごとの患者数は図1および表1のとおりである。
- 男女比（全体は）男49%、女51%とほぼ同数であった（図2）。
- 月別患者数は全体では6月に最も多く、7月に減少、8月以降は著減したが、宮古では7月が最も多く、八重山では8月から9月に増加していた。（図3）
- なお、八重山では調査を契機に検査が開始されたとのことで、7月以前の感染状況は不明である。
- 年齢別構成比は、1歳が23.9%と最も多く、次いで2歳、3歳の順であった。（図4）
- 同時期のRSウイルス感染症に比べ、年齢が高い傾向であった（図5）。

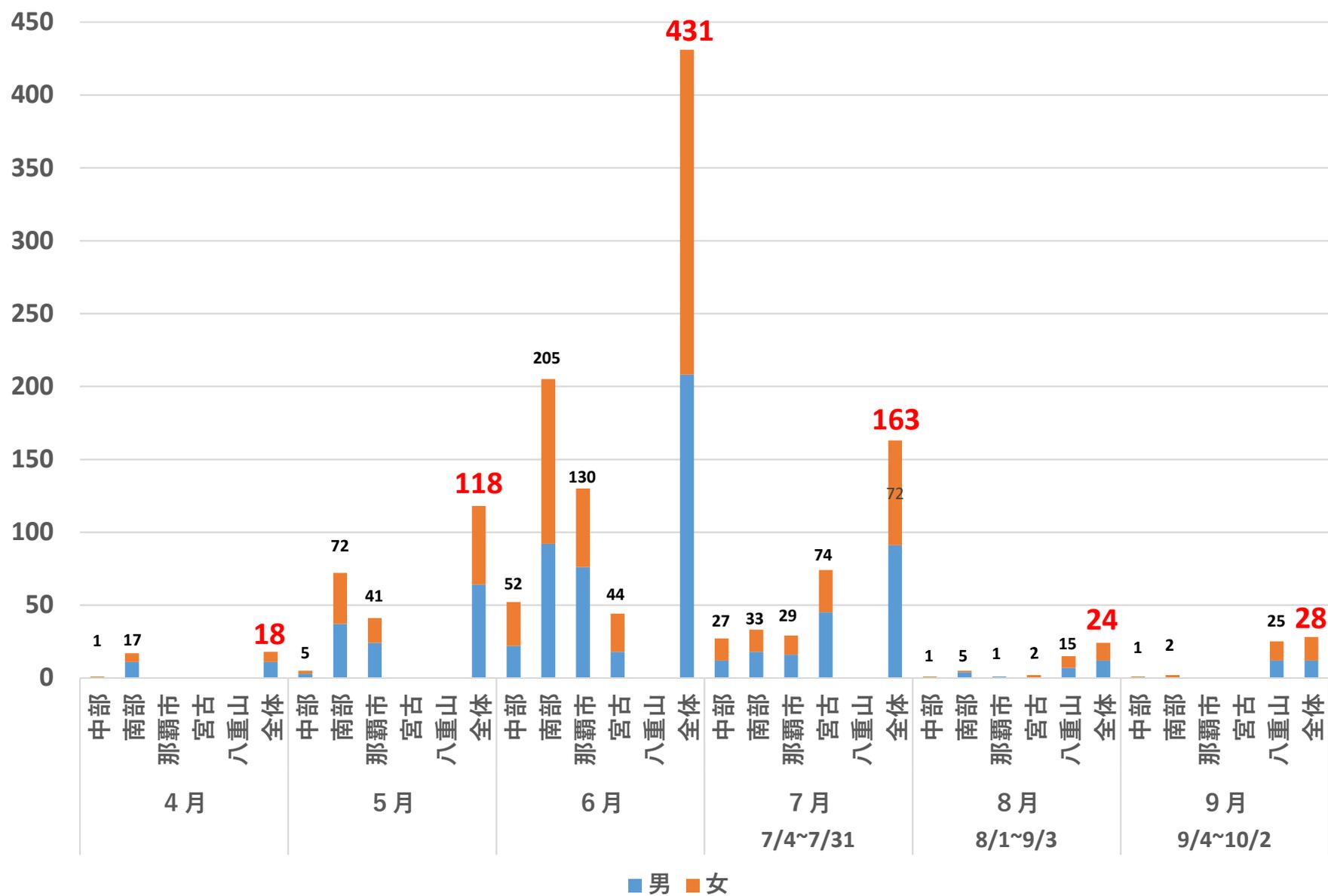
(図1) 保健所管内別患者数 (1～9月の合計)



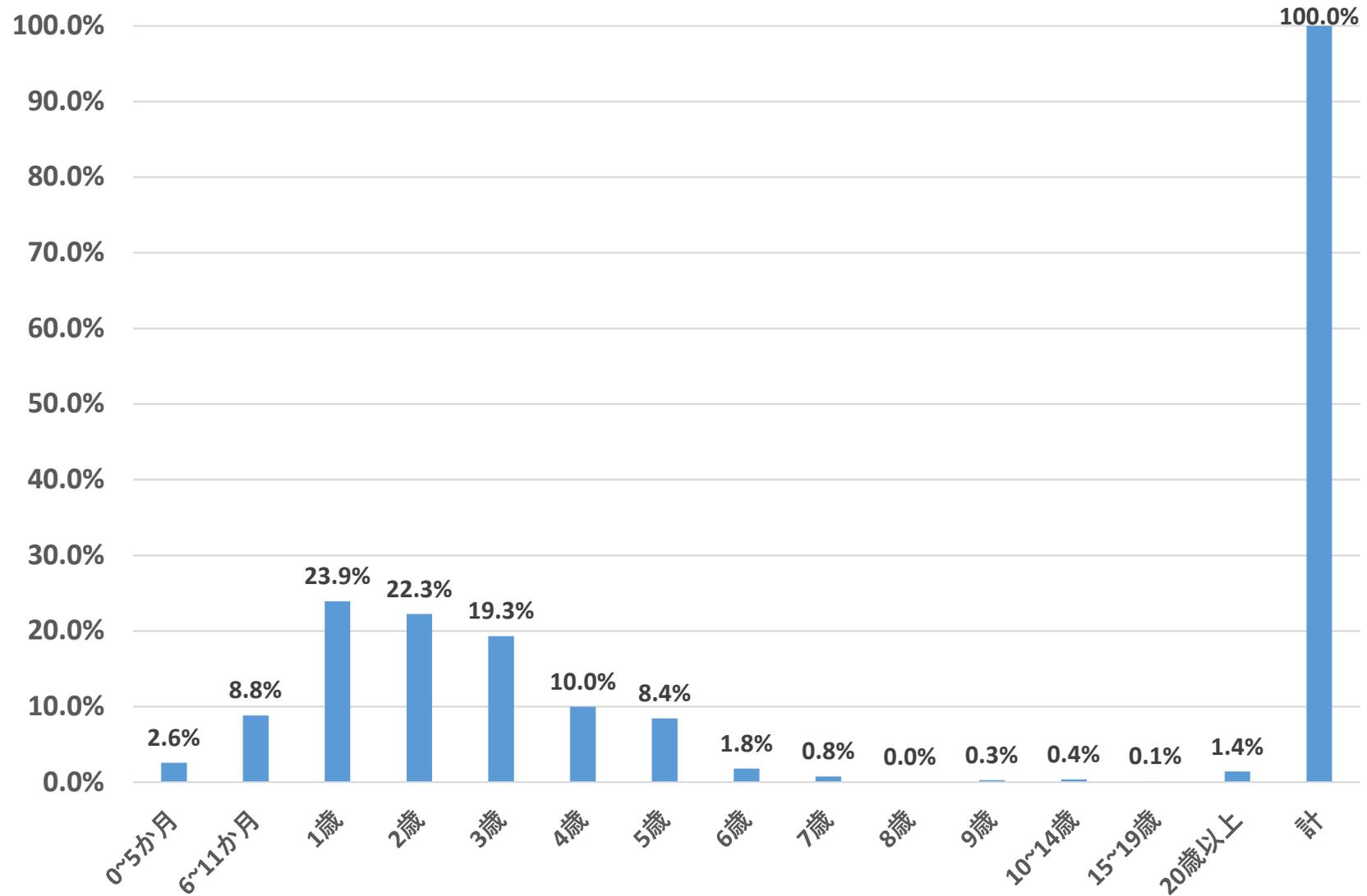
# (図2) 患者の男女比 (全体及び地区別)



# (図3) 月別患者数 (1~9月)



(図4) 患者の年齢別構成比



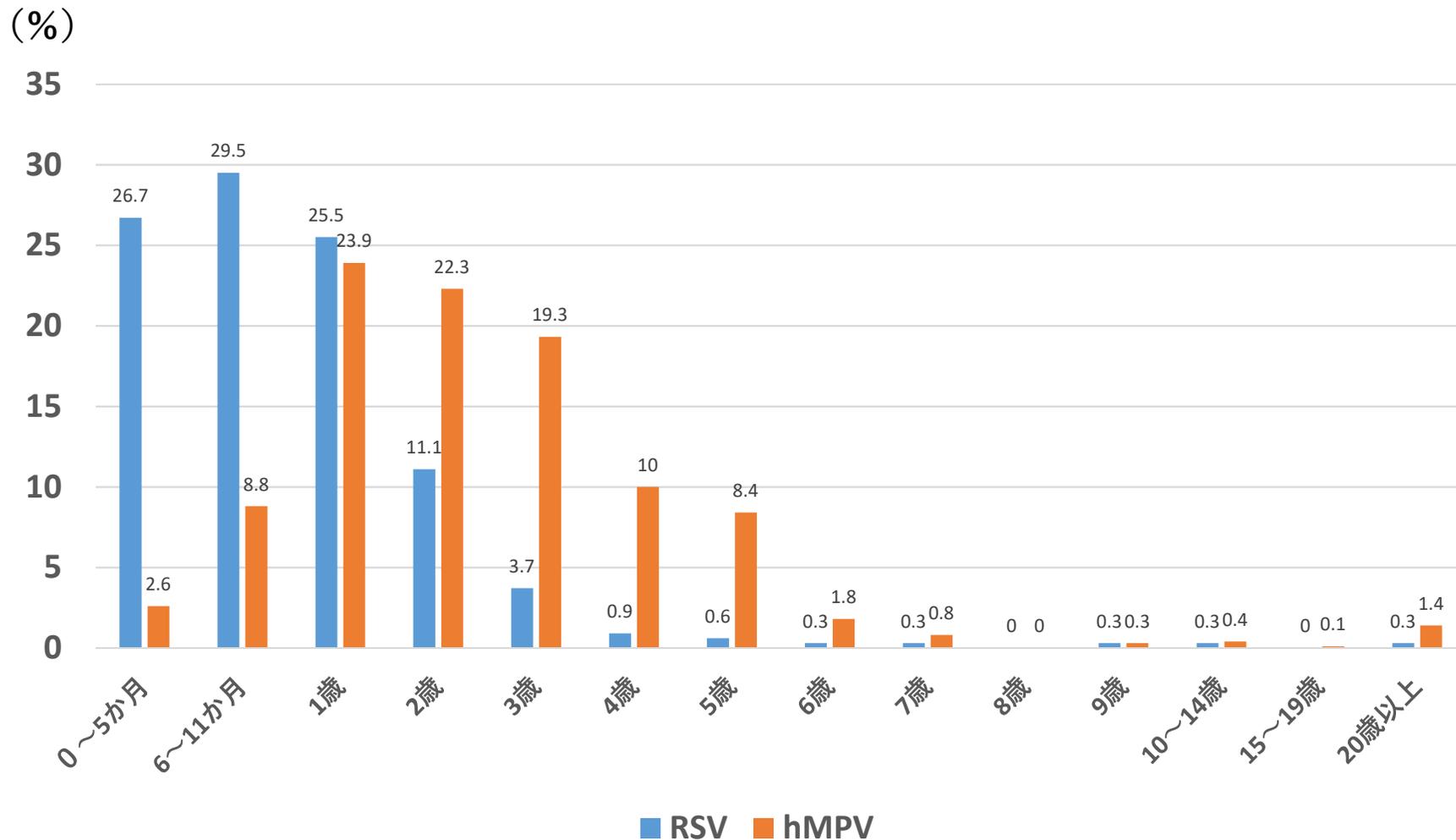
	4月			5月			6月 (～7/3)			7月 (7/4～7/31)			8月 (8/1～9/3)			9月 (9/4～10/2)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中部	0	1	1	3	2	5	22	30	52	12	15	27	0	1	1	0	1	1
南部	11	6	17	37	35	72	92	113	205	18	15	33	4	1	5	0	2	2
那覇市	0	0	0	24	17	41	76	54	130	16	13	29	1	0	1	0	0	0
宮古	0	0	0	0	0	0	18	26	44	45	29	74	0	2	2	0	0	0
八重山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	8	15	12	13	25
全体	11	7	18	64	54	118	208	223	431	91	72	163	12	12	24	12	16	28

(表1) 月別・男女別患者数

	0~5か月	6~11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上	計
中部	9	12	17	13	12	5	7	2	2	0	0	0	0	8	87
南部	6	37	88	79	67	33	16	5	0	0	0	0	0	3	334
那覇市	3	12	51	43	24	24	27	7	4	0	2	3	1	0	201
宮古	2	5	20	25	40	16	12	0	0	0	0	0	0	0	120
八重山	0	3	11	14	8	0	4	0	0	0	0	0	0	0	40
全体	20	69	187	174	151	78	66	14	6	0	2	3	1	11	782

(表2) 年齢別患者数 (地区別)

(図5) hMPV及びRSVの年齢階級別報告数(比)



hMPVは今回の調査、  
RSVは沖縄県感染症情報センターHPより引用（本年1～35週：県内報告分）

# まとめ

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行を把握するため、2022年1～8月における県内小児科定点医療機関の患者数等の積極的疫学調査を行った。

4月から患者を認め、本島では6月がピークで、その後急速に減少し、8月～9月は少数であった。宮古では7月がピークであった。八重山以外では9月にはほぼ患者を認めなかったが、八重山では8月から9月にかけて増加した。

年齢別では1歳が最も多く、同時期のRSウイルス感染症と比較し、やや年齢が高い傾向にあった。

## 【調査の限界】

- 保険適応が限られており、また、令和4年3月までは適応がより厳格であったこと、診断しても治療は対症療法になる、感染症法に規定された疾患でないなどの理由から、検査を行っていない定点機関もあり、検査を行っていても検査適応は医療機関によってさまざまであり、医療機関間、地域間を一概に比較することは困難であった。
- この調査を契機に検査を開始、あるいは拡大した医療機関も存在するようで、特に7月以前に関しては、ほとんど検査が行われていない地域も存在した。
- このため、各地域の定点当たりの感染者数の解析や、地域間の比較は今回の調査では実施しなかった。